

ウガンダ難民連帯サミット  
副大臣スピーチ（仮訳）

はじめに、本サミットの開催にあたり、ムセベニ大統領とグテーレス国連事務総長の強力なイニシアティブに感謝の意を表明したい。我が国は、本サミットの成功にむけてしっかりと貢献していく。

我が国は、近隣諸国から大量に流入する難民を受入れているウガンダの取組を高く評価している。

また、我が国は未曾有の人道危機に対する国連機関の活動についても支持をしている。

我が国は、現下の人道危機に対応していく上で、「緊急人道支援」とともに、難民の自立や受入国の経済発展を支える「開発協力」を併行して実施していく「人道支援と開発協力の連携」という理念を重視している。

我が国は、この理念に基づき、ウガンダにおいて次に掲げる3点を重視した難民支援を行っていく。

第一に、難民の自立支援を重視する。この支援は、難民の早期の帰還・再統合に寄与するのみならず、人道支援に係る中長期的なコストの削減にも資するものである。

この考えの下、我が国はウガンダで難民に対する稲作指導や職業訓練等の能力構築支援をウガンダで実施してきた。

第二に、基礎インフラの整備を重視した支援を実施する。難民と受入れコミュニティが平和的に共存することがますます不可欠である。

このため、我が国はウガンダにおいて、道路改修、給水施設の設置、小学校や病院の増設等の支援を実施してきた。更なる支援の実施のため、現在ニーズ調査を行っている。

また、地方行政機関の能力強化支援も実施している。昨日、この問題に関して、JICAがウガンダ政府及びUNDPとサイドイベントを共催した。

第三に、国際機関を通じた人道支援への貢献、及びそれらの人道支援と我が国が行う二国間の開発協力の連携の強化を重視する。

我が国は、資金面での貢献を通じて、緊急人道支援のニーズに引き続き対応していく。

また、JICAは、コメ振興プロジェクトを通じたUNHCR及びWFPとの連携において顕著な成果を挙げている。

我が国は、ウガンダにおける難民及び受入れコミュニティに裨益する支援を、2017年においては総額4,000万ドル程度実施済みあるいは実施中である。

また、新たに1,000万ドルの緊急無償資金協力の実施を決定するとともに、医療及び食料分野における無償資金協力の実施も行う予定である。

最後に、我が国は、ウガンダが包括的難民対策計画（CRRF）を着実に実施していくことで、難民問題解決のモデルとなることを期待している。

我が国は、ウガンダの取組を支援していくとともに、ウガンダへの支援から得た経験や教訓を活用することで、2018年に予定される難民グローバル・コンパクトの合意に向けて積極的に取り組んでいきたい。